



「子どもの学びを支える ための大学生の役割」

志々田まなみ(広島経済大学)

mn-shishi@hue.ac.jp



1.体験による「学び」

- 教育機会→学力
- 体験(自然体験・生活体験)機会
→自尊心・規範意識・職業意識などの向上

2.「教育格差→学力格差→体験格差」へ

○ 教育格差(教育機会の格差):親の経済的要因



○ 学力格差:親の教育関心+(親の経済的要因)



親の教育力への注目

○ 体験格差:親・**地域**の社会関係資本の大きさ

+ (親の経済的要因)

地域の教育力への注目

大学生にも期待

社会関係資本=
信頼できる人間関係や社会関係



3. 「大学生＝青年」の社会的役割

- 子どもと大人の狭間にある年齢を活かす
＝子どもにとって身近な成長モデルの提示
→ 教えるのではなく、ありのままを見せる
- かばい合い・協力をうながす＝子どもの役割意識を
目覚めさせる工夫を
- 身近な相談相手・おとなへの憧れを抱かせる
＝成長モデル提示したり、成長をともに確認
- 社会的団結＝共有する体験、分け合う体験をさせる
＝異文化との接点をつくる